

CL5808/CL5816

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、CL5808/CL5816 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2010年5月31日

ファームウェア Ver. 1.0.082 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付随的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は1年間です。

【補足】

- 本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対する保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	5
RoHS.....	5
SJ/T 11364-2006	5
安全にお使い頂くために.....	6
全般	6
ラックマウント	8
同梱品.....	9
基本パッケージ.....	9
本マニュアルについて.....	10
マニュアル表記について.....	11
第1章 はじめに.....	12
概要	12
特長	14
システム要件.....	16
セカンドコンソール.....	16
コンピューター	16
ケーブル	17
OS.....	18
製品各部名称	19
フロントパネル	19
キーボードパネル.....	20
LCD パネル	22
リアパネル.....	24
第2章 セットアップ	25
セットアップの前に.....	25
標準ラックマウントキット.....	26

単体使用時のセットアップ方法	28
単体使用時の接続図	29
ケーブル接続図	30
デイジーチェーン接続	31
デイジーチェーン接続図	32
第 3 章 基本操作	33
コンソールを開く	33
別々に開く	33
同時に開く	35
コンソールを閉じる	36
使用上の注意	38
電源 OFF と再起動	39
LCD の OSD 設定	40
LCD ボタン	40
LCD 調整値の設定	41
ホットプラグ	42
ステーションのホットプラグ	42
KVM ポートのホットプラグ	42
コンソールポートのホットプラグ	42
ポート切替	43
手動によるポート切替	43
ポート ID の割り当て	44
USB 周辺機器	44
第 4 章 OSD 操作	45
概要	45
OSD へのログイン	45
OSD メイン画面	46
OSD メイン画面の項目	47
OSD ナビゲーション	47
OSD 機能	48
F1:GOTO	48
F2:LIST	49
F3:SET	50
F4:ADM	53
F5:SKP	59
F6:BRC	60

F7:SCAN	61
F8:LOUT	62
第 5 章 キーボードによるポート操作.....	63
ホットキーによるポート操作.....	63
ホットキーモード.....	64
ホットキーモードの起動	64
ホットキーモードが有効である場合	64
ホットキーモードの終了	65
アクティブポートの選択.....	65
オートスキャンモード	66
オートスキャンモードの起動.....	66
オートスキャンの終了	66
オートスキャンの一時停止.....	66
スキップモード	68
スキップモードの起動.....	68
スキップモードの終了.....	68
コンピューターのキーボード/マウスのリセット	69
ホットキーによるビープ音の切替	69
クイックホットキーの切替.....	70
OSD ホットキーの切替	70
ポート OS の変更	71
デフォルト値のリストア.....	71
ホットキー一覧表.....	72
第 6 章 キーボードエミュレーション	74
Mac キーボード.....	74
Sun キーボード	75
第 7 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティー	76
はじめに.....	76
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード.....	76
アップグレード作業の下準備.....	77
アップグレードの開始.....	78
アップグレード成功	80
アップグレード失敗	80
ファームウェアアップグレードリカバリー.....	81
付録.....	82
製品仕様.....	82

スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表	86
CL5808 に 8 ポート KVM スイッチを接続した場合	86
CL5808 に 16 ポート KVM スイッチを接続した場合	86
CL5816 に 8 ポート KVM スイッチを接続した場合	87
CL5816 に 16 ポート KVM スイッチを接続した場合	87
対応 KVM スイッチ	88
ログイン情報のクリア	89
OSD の工場出荷時における初期設定一覧	90
イージーセットアップラックマウントキット	91
トラブルシューティング	95
概要	95
ホットキーモード/OSD 専用起動キー	95
SPHD コネクタについて	96

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には

何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:**ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを棚や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

基本パッケージ

CL5808/CL5816 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL5808/CL5816 KVMドロワー(標準ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ 2L-5302UP(1.8m)ケーブル ×2
- ◆ コンソールケーブル ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ 接地線 ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング) ×1
- ◆ ユーザーマニュアル ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL5808/CL5816 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:CL5808/CL5816 を紹介します。特長および機能の概要、また製品の各部名称について説明します。

第2章 セットアップ:基本的なハードウェアセットアップの手順から、32 台のスイッチをダイジーチェーン接続する方法まで、CL5808/CL5816 セットアップについて説明します。

第3章 基本操作:CL5808/CL5816 の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 OSD 操作:CL5808/CL5816 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明します。

第5章 キーボードによるポート操作:CL5808/CL5816 のホットキー操作に関する機能概要および操作手順について説明します。

第6章 キーボードエミュレーション:Mac キーボード・Sun キーボードの各エミュレーションについて対応表を用いて説明します。

第7章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:お使いの CL5808/CL5816 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

概要

CL5808/CL5816 は、LCD コンソールとキーボード・モニター・マウス(KVM)の機能を統合した、LCD KVMドロワーです。8/16 台のコンピューターにセキュアな方法でアクセスすることが可能で、わずか 1U のラックスペースでマウントできるのが特長です。

CL5808/CL5816 の 19 インチ LCD モニター部分とキーボード/タッチパッド部分は別々にスライドします。データセンターのスペースを最大限に利用するために、キーボード/タッチパッド部分を使用しないときにはこれをラックに収納したまま、薄型の LCD モニター部分をラックに立てかけてコンピューターの画面を簡単に監視することができます。リアパネルには、オプションの外部コンソール(キーボード、マウス、モニター)から LCD KVM ドロワーが管理できる、セカンドコンソールポートを搭載しています。さらに便利なことに、本製品は外付け USB マウスの使用にも対応しています。

CL5808/CL5816 は、PS/2・USB のどちらのキーボード・マウスを使用するコンピューターでも接続が可能です。また、製品本体に USB デバイスを接続した場合、このデバイスを接続コンピューター間で共有し、切り替えて使用することもできます。製品単体では 8/16 台のコンピューターを操作することができます。最大 31 台の対応 KVM スイッチを本製品にダイジーチェーンした場合は、最大 512 台のコンピューターを 1 箇所のキーボード・モニター・マウスから操作することができます(対応 KVM スイッチについては付録を参照)。

CL5808/CL5816 は、モジュール式设计を採用しています。保守や修理がしやすいように、KVM 部分はスイッチ部分から分離した構造を取っています。

本製品は、下表に示す通り 2 種類のモデルを提供しています。

型番	LCD パネル	KVM ポート	電源タイプ
CL5808	19 インチ	8	AC
CL5816	19 インチ	16	AC

お使いの CL5808/CL5816 への投資は、同梱のファームウェアアップグレードユーティリティによって保護されます。利用可能なファームウェアアップグレードファイルを弊社サイトからダウンロードし、このユーティリティを使って迅速かつ手軽にアップグレードを実行することで、お使いの製品でも最新の機能をお使いいただけます。

セットアップに必要な作業は、必要なケーブルを正しく接続するだけですので、簡単で時間もかかりません。CL5808/CL5816 はキーボード入力をダイレクトに受信しますので、ソフトウェアの設定も不要で、複雑な設定ルーチンや互換性の問題に悩まされる必要もありません。

製品に接続されたコンピューターへのアクセスは、キーボードからのホットキー入力、またはマウスで操作できる OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニューを使って簡単に操作できます。便利なオートスキャン機能を使えば、製品配下にある全コンピューターの動作を 1 台ずつ自動的にスキャンしたり監視したりすることができます。

CL5808/CL5816 の導入は、時間面や金銭面でのコスト削減に大きく貢献します。お使いのシステムの管理に、スライド対応の LCD コンソール CL5808/CL5816 を使用することで、コンピューター毎にキーボード・モニター・マウスを個別に用意する必要がなくなり、これらのデバイスが占有するスペースも最小限に抑えられます。また、光熱費が節約できるだけでなく、作業するコンピューターに合わせて場所を移動するといった手間が省けるというメリットもあります。

特長

- ◆ デュアルスライド対応 19 インチ LCD 一体型 8/16 ポート KVM ドロワー
- ◆ 省スペース設計 - 2 コンソール(1 バス共有)から最大 8/16 台のコンピューターを操作可能
- ◆ デイジーチェーン接続対応 - KVM スイッチの追加増設は最大 31 台まで、接続可能コンピューターは最大 256 台(CL5808)/512 台(CL5816)まで対応
- ◆ デュアルインターフェース - コンピューターおよびコンソールは、PS/2、USB の両インターフェースに対応
- ◆ ドロワーに接続されている各コンピューターで共有可能な USB ハブポートを搭載*
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun
- ◆ マルチメディア USB キーボード対応 (Windows、Linux、Mac、Sun)
- ◆ PS/2・USB インターフェース自動認識機能
- ◆ キーボード/マウスエミュレーション(PS/2、USB) - コンピューターのスムーズな切替を実現。また、コンソールの選択ポートにかかわらず複数コンピューターの同時起動が可能
- ◆ 解像度 - 最大 1,280×1,024@75Hz
- ◆ ソフトウェア不要 - ポートの切替方法として、フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、および多言語対応 OSD メニューを提供
- ◆ デイジーチェーン接続の構成におけるステーション位置を自動認識 - 手動による DIP スイッチの設定が不要。ステーション位置は製品フロントパネルで LED 表示
- ◆ ステーション位置の変更時にはポートネームを自動更新
- ◆ 2 段階のユーザーアクセス制御 - 画面の参照や操作は権限のあるユーザーのみに限定
- ◆ アドミニストレーター1 名、ユーザー4 名のアカウントを個別に作成可能
- ◆ オートスキャンモード - 製品に接続された特定のコンピューターを自動的に切替表示
- ◆ ブロードキャスト機能 - コマンドを製品配下にあるコンピューターに一斉送信
- ◆ ホットプラグ対応 - 製品の電源を切ることなく、コンピューターの取り付け、取り外しが可能
- ◆ ビープ音はホットキーや OSD で ON/OFF 切替が可能
- ◆ デイジーチェーン接続の環境下においては、デイジーチェーンケーブル経由で全 KVM スイッチに対して同時にファームウェアアップグレードを実行

* USB KVM ケーブルで接続されたコンピューターからのみ利用可能

- ◆ セカンドコンソールポート搭載 (PS/2・USB 対応)
- ◆ 外付 USB マウス用ポート搭載
- ◆ 便利なダイレクトポート選択ボタン(8/16 箇所) - 各ボタンとも、サーバー電源が ON になっているか、また、選択されているかを 2 つの LED ランプで表示
- ◆ 2 桁 7 セグメント LED 付属のステーション Up/Down ナビゲーションボタンで、デジタイゼーション接続の機器構成において現在選択されているステーションを表示
- ◆ キーボード部分がラックに納められた状態でも、フロント LCD パネルに搭載されたポートナビゲーションボタンを使えばポート切替が簡単に
- ◆ ホットキーモードや OSD 起動は、専用キーで呼び出しが簡単
- ◆ コンピューターの検索や管理がしやすい OSD ツリー構造
- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロック
- ◆ ステーション追加時には OSD ポート一覧のツリーが自動展開
- ◆ セキュリティ - アドミニストレーター/ユーザーのパスワード認証でセキュリティ保護を強化。アドミニストレーターのアクセス権限はマスター/スレーブのステーション間で同期
- ◆ 解像度の変化に応じて OSD 画面を自動調整
- ◆ 2 種類のログアウト方法 - 手動、タイムアウト
- ◆ 1U に満たない薄型構造で取り扱いがスムーズ
- ◆ DDC エミュレーション - 各コンピューターのビデオ設定はモニターに最適な出力ができるように自動調整
- ◆ 標準 105 キー キーボード搭載
- ◆ コンピューターの切替時にはキーボードの状態をリストア

システム要件

セカンドコンソール

セカンドコンソールには、下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 本製品に接続して使用するコンピューターの解像度に適した VGA・SVGA・マルチシンクモニター
- ◆ USB または PS/2 に対応したキーボードおよびマウス

コンピューター

製品に接続するコンピューターには、下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ D-sub15 ピンポートを搭載した VGA、SVG またはマルチシンクビデオグラフィックカード

注意: 本製品に搭載されている LCD モニターの最大解像度は 1,280×1,024@75Hz です。接続するコンピューターの解像度が、この最大解像度を超えないようにご注意ください。

- ◆ PS/2 マウス・キーボードポート(ミニ DIN6 ピン)、または 1 ポート以上の USB ポート
- ◆ 本製品では Sun USB システムをサポートします。また、レガシー Sun システムを接続してお使いの場合は、ATEN 製 Sun コンソールコンバーター CV-130A が必要になります。

ケーブル

基準を満たしていないケーブルの使用は、接続デバイスに損傷を与えたり、パフォーマンス全体を低下させたりするおそれがあります。信号の整合性を最適化させ、レイアウトを簡素化するために、下表に示す高品質の専用ケーブルの使用を推奨します。

機能	型番(長さ)
KVM スイッチ間の接続 (デ이지チェーン接続)	2L-1700(0.6m)
	2L-1701(1.8m)
	2L-1703(3m)
	2L-1705(5m)
	2L-1715(15m)
KVM スイッチ・コンピューター間の接続(PS/2・USB)	2L-5301UP(1.2m)
	2L-5302UP(1.8m)
	2L-5303UP(3m)
KVM スイッチ・コンピューター間の接続(PS/2)	2L-5201P(1.2m)
	2L-5202P(1.8m)
	2L-5203P(3m)
	2L-5206P(6m)
	2L-5702P(1.8m)
KVM スイッチ・コンピューター間の接続(USB)	2L-5201U(1.2m)
	2L-5202U(1.8m)
	2L-5203U(3m)
	2L-5205U(5m)

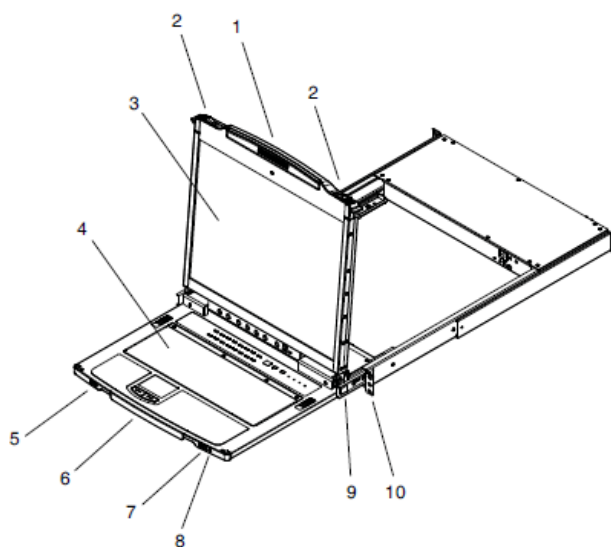
OS

本製品に対応した OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降
DOS		6.22

製品各部名称

フロントパネル

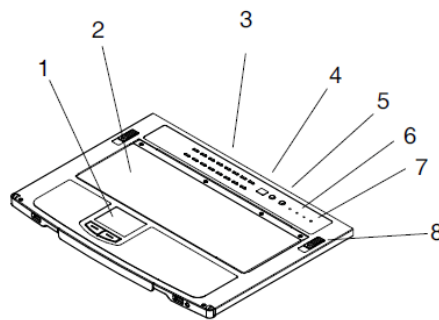


No.	名称	説明
1	上部ハンドル	LCD モジュールを引き出す場合は、このハンドルを引き出してください。また、元に戻す場合は、このハンドルを押してください。コンソールのスライドに関する詳細は、p.33「コンソールを開く」をご参照ください。
2	モジュールリリースキャッチ	コンソール部分を引き出す場合は、これらのキャッチを内側にスライドして解除してください。
3	LCD パネル	p.22「LCD パネル」をご参照ください。
4	キーボードパネル	p.20「キーボードパネル」をご参照ください。
5	USB ポート	この USB ポートに USB1.1 デバイス(フラッシュメモリ、CD-ROMドライブ)を接続して使用することができます。
6	下部ハンドル	キーボード部分を引き出す場合はこの部分を引っ張り、収納する場合はこの部分を押ししてください。
7	外付けマウスポート	外付けマウスを使用したいユーザーのために、USB マウスポートが提供されています。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
8	電源 LED	点灯時(青色)には、ユニットが給電されていることを表します。
9	LCD リリースキャッチ	これらのキャッチ(左右各 1 カ所)は、LCD パネルを引き出せるように解除するためのものです。
10	ラックマウントタブ	ラックマウントタブはユニットの四隅に位置します。詳細については p.26「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

キーボードパネル

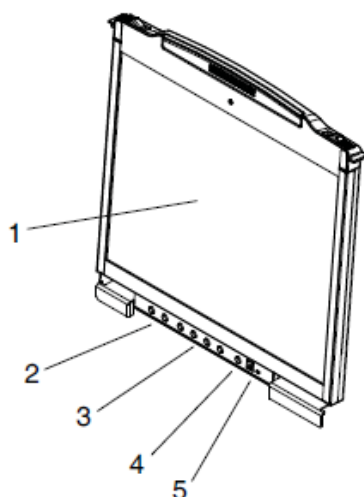


No.	名称	説明
1	タッチパッド	標準的なタッチパッドです。
2	キーボード	標準的な 105 キー キーボードです。
3	ポート選択ボタン・LED	<p>選択中のステーションにあるポートにアクセスする場合は、そのポートに対応したポート選択ボタンを押してください。インジケータ LED は製品に内蔵されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ オンライン LED の点灯時には、そのポートに接続されているコンピューターの電源が ON で動作中であることを表します。 ◆ 選択 LED の点灯時には、そのポートの KVM が選択されていることを表します。
4	ステーション ID LED	デージーチェーン接続の構成では、選択中のステーションのステーション ID がこのパネルに 2桁の数字で表示されます。詳細については p.43「手動によるポート切替」をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
5	ステーション選択ボタン	<p>デジチェーン接続の構成では、「UP」または「DOWN」ボタンを押して目的のステーションまで順番に切り替えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 左(DOWN)ボタンを押すと、その機器構成の中で KVM 選択を降順に選択していきます(例:ステーション 2→ステーション 1)。ステーション 1 に切り替えた後は、最後のステーションに戻ります。 ◆ 右(UP)ボタンを押すと、その機器構成の中で KVM 選択を昇順に選択していきます。最後のステーションに切り替えた後は、ステーション 1 に戻ります。
6	ロック LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各キーの状態を表す LED です。
7	リセットスイッチ	ロック LED の右側に位置するスイッチです。先が細く尖ったものでこのピンホール型ボタンを押すと、システムリセットを実行します。
8	キーボードリリースキャッチ	キーボード・タッチパッド部分を引き出す際には、これらのキャッチ(左右各一カ所)のロックを解除します。

LCD パネル

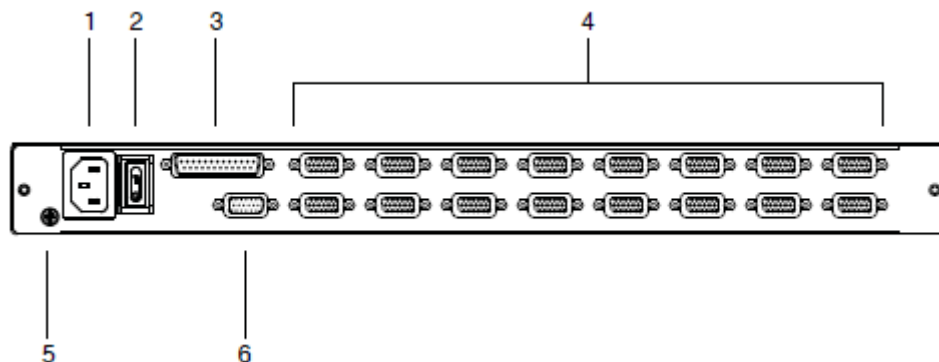


No.	名称	説明
1	LCD ディスプレイ	LCD モニターを使用する際には、LCD パネル部分を引き出して起こしてください。
2	ポート選択スイッチ	<p>キーボード部分が引き出されていない場合には、このボタンを使ってポートにアクセスします。UP・DOWN の各ボタンを使ってポートを前後に切り替えてください。</p> <p>◆ 左(DOWN)ボタンを押すと、その機器構成の中で KVM 選択を降順に選択していきます(例:ポート2→ポート1)。ポート1に切り替えた後は、最後のポートに戻ります。</p> <p>◆ 右(UP)ボタンを押すと、その機器構成の中で KVM 選択を昇順に選択していきます。最後のポートに切り替えた後は、ポート1に戻ります。</p>
3	LCD OSD コントロール	LCD ディスプレイの表示位置や画質設定を調整するボタンです。詳細についてはp.40「LCD の OSD 設定」をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	LCD 電源ボタン	LCD モニターの電源を ON または OFF にする場合は、このボタンを押してください。LCD モニターが OFF の場合、このボタンは点灯します。また、LCD モニターが ON の場合に、このボタンは消灯します。(この機能はモニターに対してのみ有効です。KVM スイッチ自体には影響を与えません。)
5	ファームウェアアップグレードセクション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ファームウェアアップグレードポート:ファームウェアアップグレードデータを管理者のコンピューターから CL5808/CL5816 に転送するファームウェアアップグレードケーブルは、この RJ-11 コネクターに接続します。 ◆ ファームウェアアップグレードスイッチ:通常の実作時には、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせます。(ファームウェアアップグレードに関する詳細は p.76「ファームウェアアップグレードユーティリティー」をご参照ください。)

リアパネル



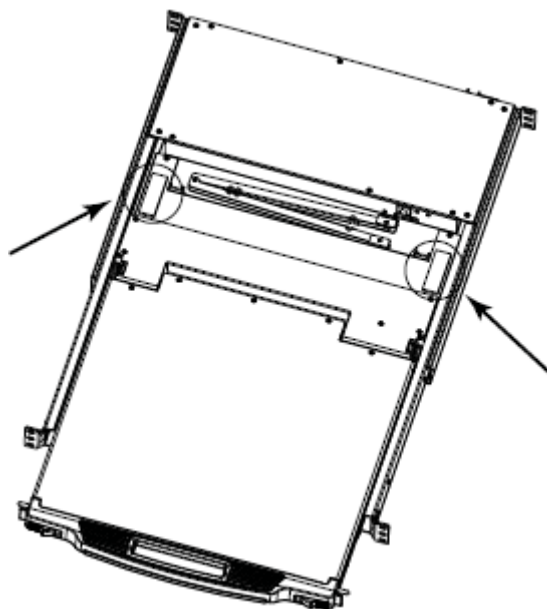
No.	名称	説明
1	電源ソケット	標準的な3極ソケットです。AC電源に接続された電源コードをこの部分に接続します。
2	電源スイッチ	標準的なロッカースイッチで、本体電源のON/OFF操作を行います。
3	デジチェーンポート	ユニットをデジチェーン接続する際に、デジチェーンケーブルをこの部分に接続します。
4	KVMポートセクション	コンピューターに接続するケーブルをこの部分につなぎます。 注意: このSPHDコネクタの形状は、本製品向けに設計されたKVMケーブルだけを接続できるように、特別に変更されたものです(p.17「ケーブル」参照)。これらのポートをコンピューターに接続する際には、一般的な15ピンVGAコネクタが付属したケーブルを使用しないでください。
5	グラウンドターミナル	本体を接地する接地線はこの部分に接続します。
6	セカンドコンソールポート	柔軟かつ便利にお使い頂けるように、CL5808/CL5816では独立したセカンドKVMコンソールに対応しています。セカンドコンソールをセットアップする場合は、コンソールケーブル(製品パッケージに同梱)をこの部分に接続してください。

第2章 セットアップ

セットアップの前に

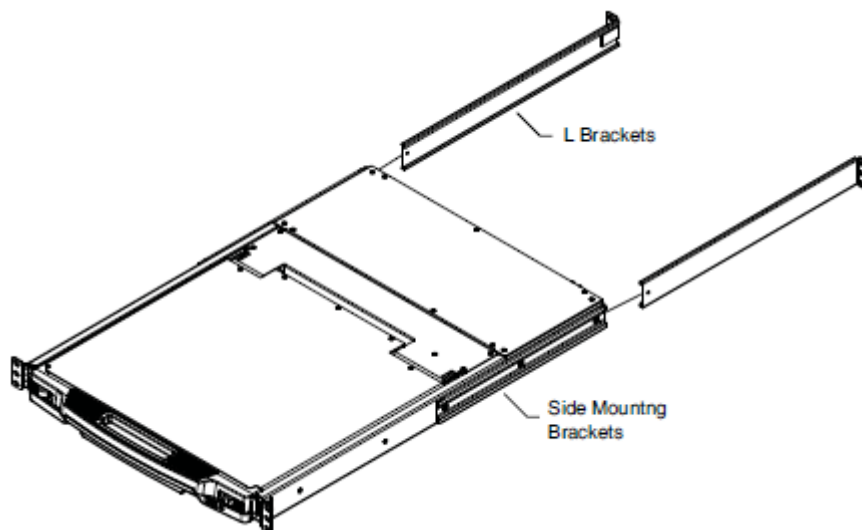


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.6 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。
3. 運搬時に製品を保護するために、梱包材が製品本体に挿しこまれています。この梱包材が見える部分まで LCD パネル部分を引き出してください (p.33「コンソールを開く」参照)。製品をセットアップする前には、下図に示す梱包材を取り外してください。



標準ラックマウントキット

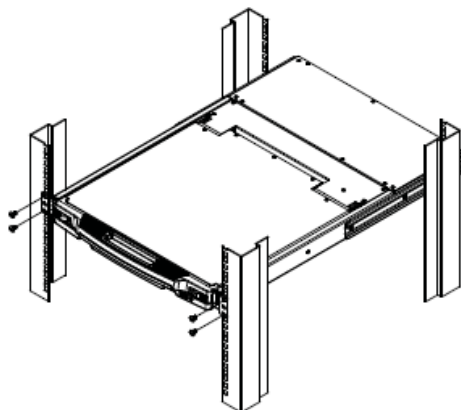
CL5808/CL5816 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウントが可能なラック支柱奥行きは、42～77cmです。



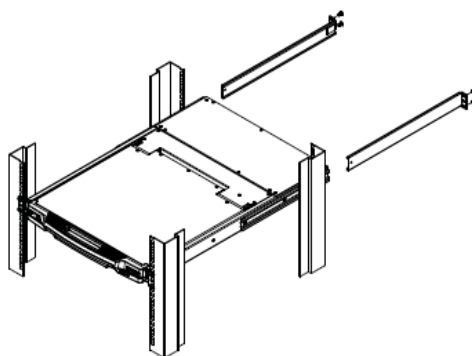
-
- 注意:**
1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者と、複数で行ってください。
 2. ラックへの取付に使用するネジおよびケージナットは、製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケージナットをご用意ください。
 3. オプションの**イージーセットアップラックマウントキット**が製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.91 をご参照ください。
-

CL5808/CL5816 をラックマウントする場合は、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者とで、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

注意: 製品両側には適切な通気を確保するために少なくとも 5cm 程度、また、製品リア側にはケーブル取り回しのスペースを確保するために少なくとも 13cm 程度の空間をそれぞれ確保した状態で設置してください。

単体使用時のセットアップ方法

製品を単体で使用する場合は別の機器とデジチェーン接続する必要はありません。製品を単体構成でセットアップする場合は、次のページ以降の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にしながら、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. 製品本体に同梱されている接地線の片側を本体のグラウンドターミナルに、もう片側を適切なアース端子にそれぞれ接続し、製品本体を接地してください。

注意: この手順は省略せず必ず行ってください。製品を接地することで、急激な電圧変化や静電気に起因する製品へのダメージを避けることができます。

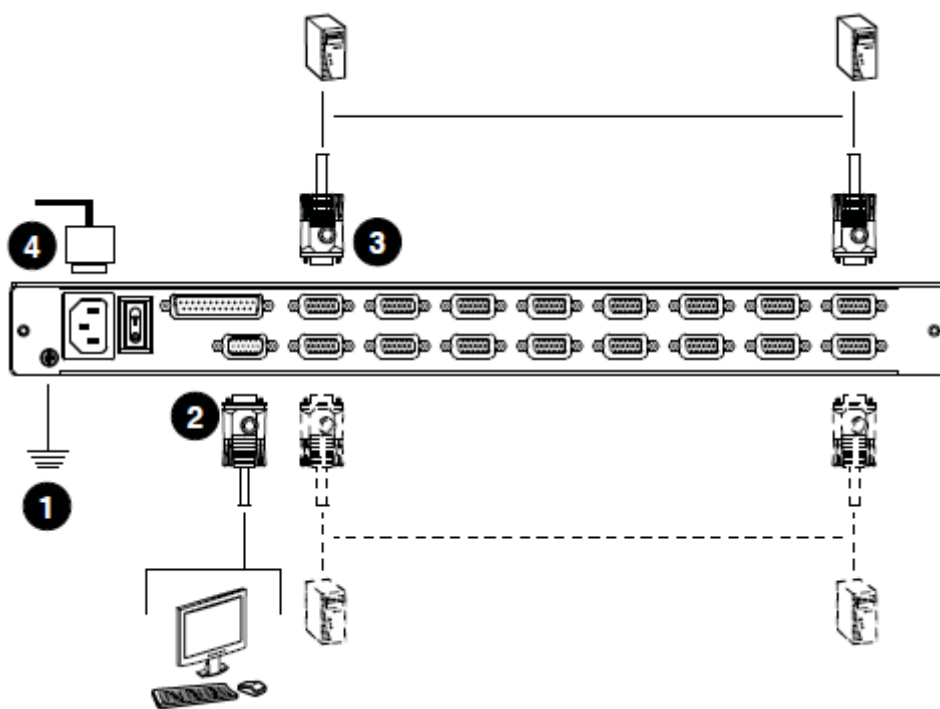
2. セカンドコンソールとしてキーボード、モニター、マウスを製品に接続してお使いの場合は、製品に同梱されているコンソールケーブルを使って、キーボード、マウス、モニターを製品のコンソールポートにそれぞれ接続してください。接続方法については p.30 の「コンソールケーブル接続図」をご参照ください。

注意: 1. セカンドコンソールの使用はオプションです。
2. 使用するキーボードとマウスは自由に組み合わせられます。例えば、PS/2 キーボードと USB マウスを組み合わせで使用することができます。

3. KVM ケーブル(p.17 参照)を使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。接続方法については p.30 の「KVM ケーブル接続図」をご参照ください。
4. 製品に電源ケーブルを接続し、そのケーブルを AC 電源に接続してください。

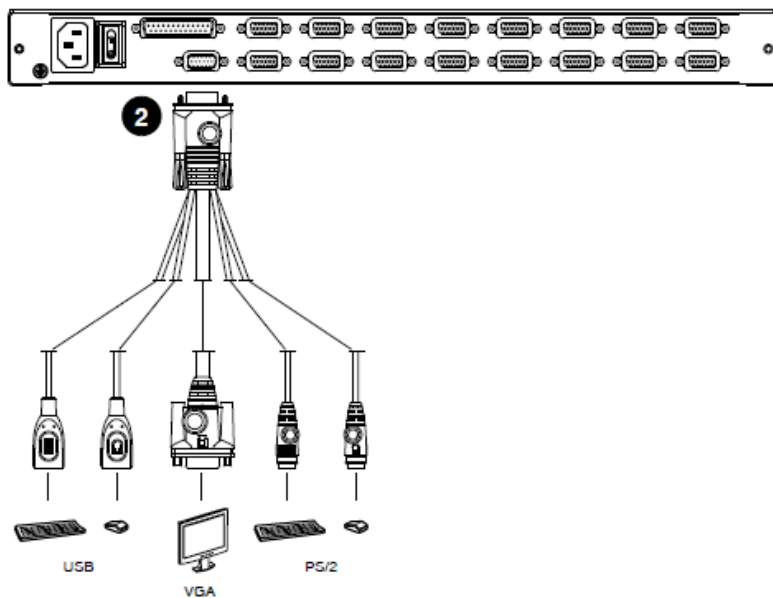
上記のセットアップ作業が完了したら、CL5808/CL5816 に電源を入れてください(詳細については p.39「電源 OFF と再起動」参照)。CL5808/CL5816 に電源が入ったことを確認したら、コンピューターに電源を入れてください。

単体使用時の接続図



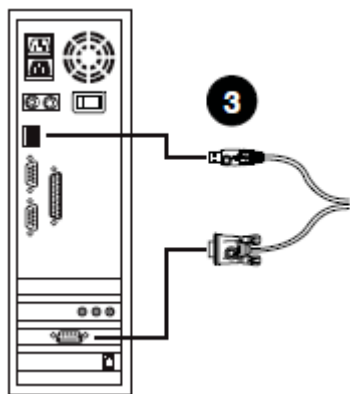
ケーブル接続図

コンソールケーブル接続図

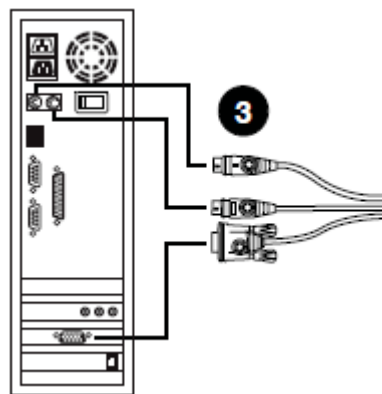


KVM ケーブル接続図

USB KVM ケーブルの接続



PS/2 KVM ケーブルの接続



デージーチェーン接続

操作したいコンピューターの台数が CL5808/CL5816 のポート数を超える場合でも、最大 31 台の対応 KVM スイッチを CL5808/CL5816 にデージーチェーン接続することで対応が可能です (p.88 「対応 KVM スイッチ」参照)。この場合、最大で 256/512 台のコンピューターを CL5808/CL5816 から操作することができます。コンソール接続数と KVM スイッチの必要台数の関連表は p.86 に掲載されています。

デージーチェーン接続の構成でセットアップする場合は、まず、使用するすべてのデバイスの電源が OFF になっていることをご確認ください。準備が整ったら、次のページの接続図を参考にしながら、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. デージーチェーン専用ケーブル (p.17 参照) を使って、CL5808/CL5816 の「Chain Out」ポートと子機の「Chain In」ポートを接続してください。(1 台目の「Chain Out」ポートと 2 台目の「Chain In」ポートに、2 台目の「Chain Out」ポートと 3 台目の「Chain In」ポートに接続するといった要領で作業を行ってください)

注意:

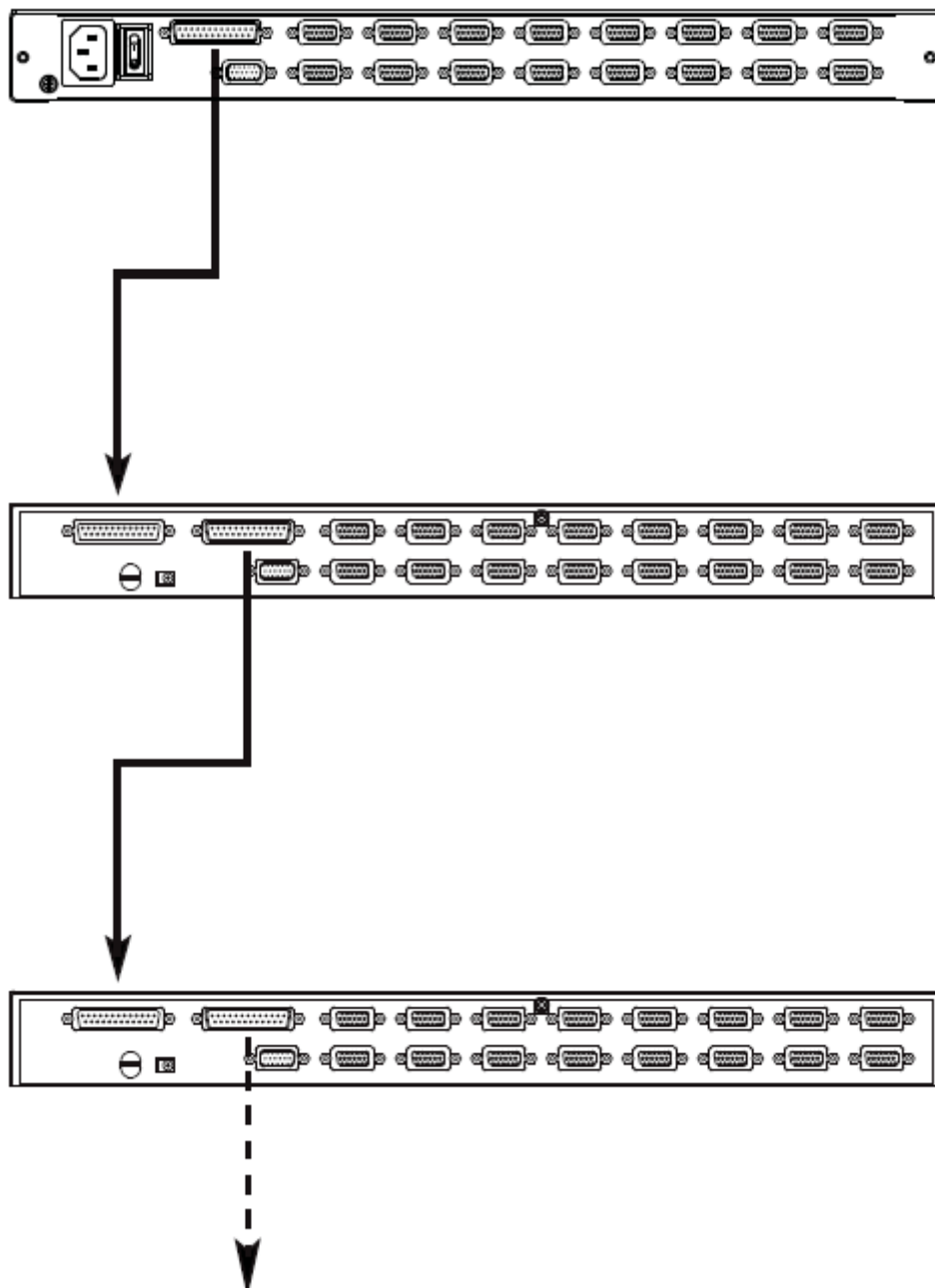
1. ステーション間の距離が 15m を超えないようにセットアップしてください。
2. デージーチェーン接続で使用するステーションの台数を問わず、1 台目のステーションと最後のステーションの間の距離が 100m を超えないようにセットアップしてください。その間にセットアップされているステーションのうち、上記の注意 1 の上限を超えるものがあつた場合は、デージーチェーン接続の機能が必ずしも保証されるわけではありません。

2. KVM ケーブルを使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください (p.30 「KVM ケーブル接続図」参照)。
3. 他のスイッチもデージーチェーン接続する場合は、上記の手順を繰り返してください。
4. 下記の手順に従って電源を入れてください。
 - a) CL5808/CL5816 に電源を入れます。
 - b) CL5808/CL5816 にデージーチェーン接続された KVM スイッチに順に電源を入れていってください (2 台目のステーションに電源を入れたあとで、3 台目のステーションに電源を入れるといったように、ステーション順に電源を入れてください)。各機器のステーション ID が認識され、フロントパネルに LED 表示されるのを確認してから次のステーションの電

源を入れるようにしてください。

- c) すべてのステーションのステーション ID が確定したら、KVM スイッチに接続されたコンピューターの電源を入れます。

デジチェーン接続図



第3章 基本操作

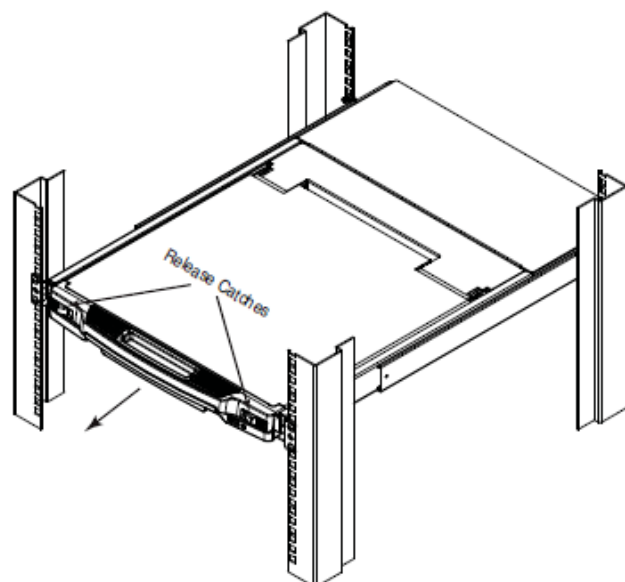
コンソールを開く

CL5808/CL5816のコンソールは、上部パネル側のLCDパネル部分と、この下部に位置するキーボード/タッチパッド部分から構成されます。

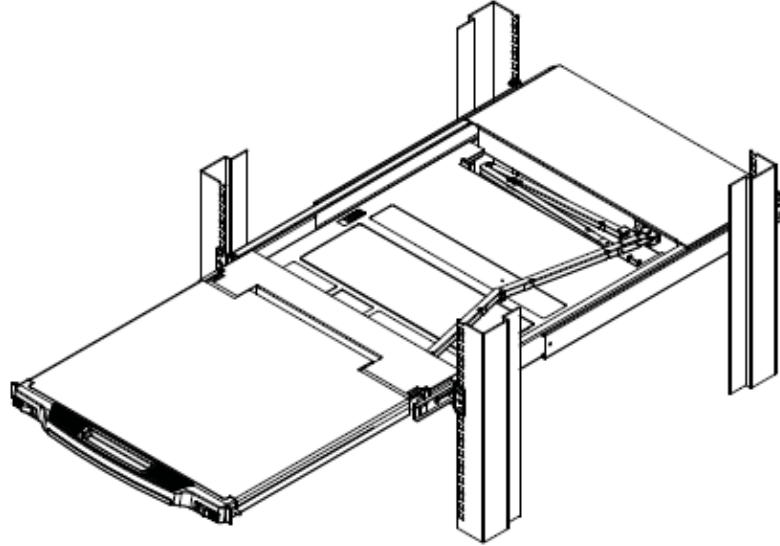
これらのパネルは、同時スライドと個別スライドの両方が可能です。この構造によって、キーボード/タッチパッド部を使用しない場合は、邪魔にならないようにラックに格納し、LCDパネル部分だけでモニタリングを継続することができます。

別々に開く

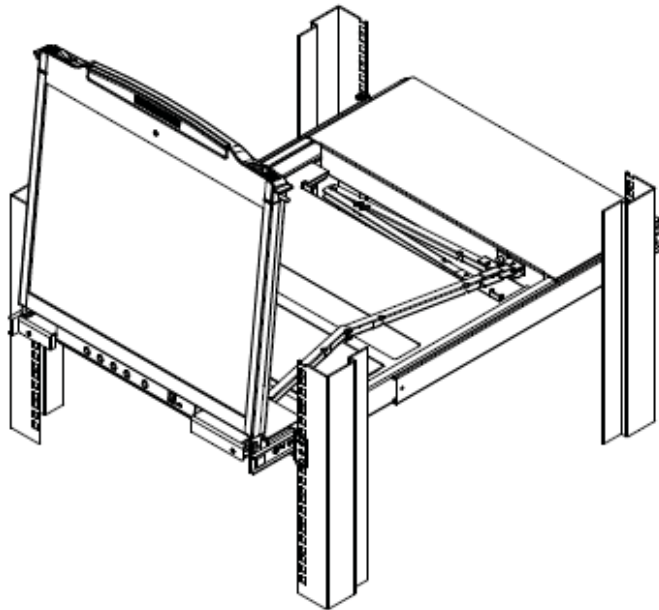
1. リリースキャッチを引いてコンソールのロックを解除し、上部パネルを数センチ手前に引き出してください。コンソールのロックが解除されると、キャッチから手を離すことができます。



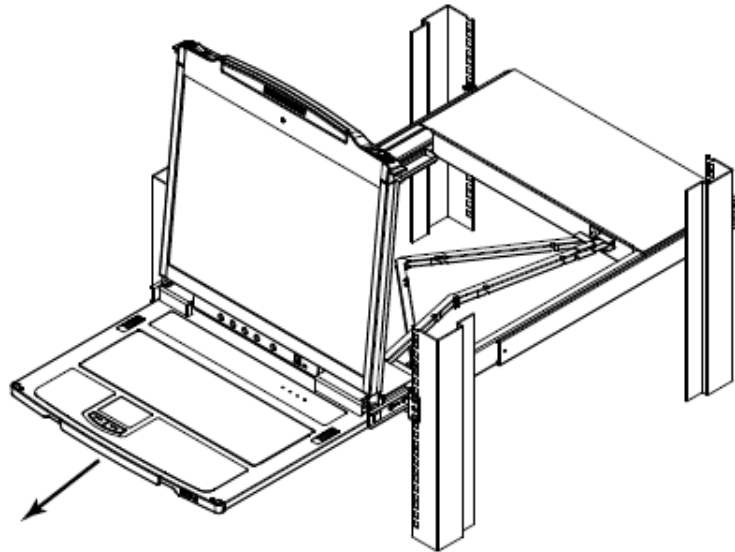
2. 上部パネルが「カチッ」と音がするまで引き出してください。



3. LCDディスプレイが見えるように上部パネルを起こしてください。



4. 下部パネルも「カチッ」と音がするまで引き出してください。



同時に開く

「別々に開く」のセクションにおける図を参考にしながら、下記の手順に従って操作してください。

1. リリースキャッチを引っ張って、キーボード部分から「カチッ」と音がするまで上下パネルを引き出してください。

注意: コンソールが解除されると、キャッチから手を離すことができます。

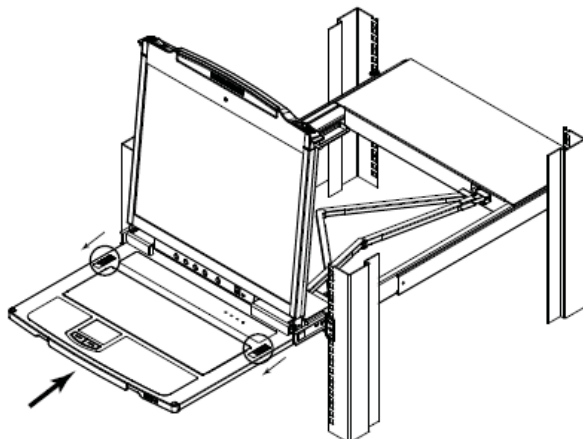
2. 上部パネルの残りを「カチッ」と音がするまで引き出してください。

3. LCD ディスプレイが見えるように上部パネルを起こしてください。

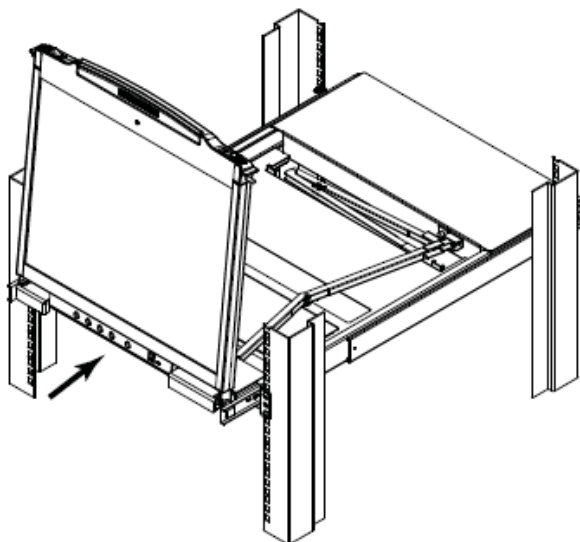
注意: 次のページにある、キーボードパネルへの過重物積載に関する注意書きをご確認ください。

コンソールを閉じる

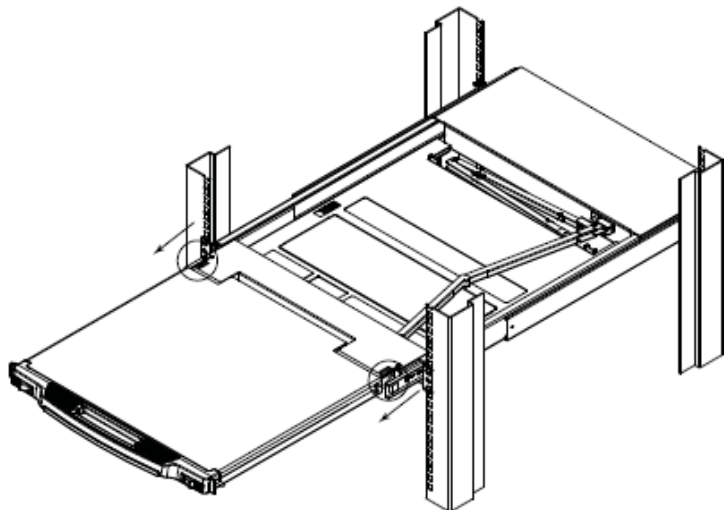
1. キーボードパネルの左右にあるリリースキャッチを手前にスライドさせてロックを解除し、ラック側にスライドさせてください。



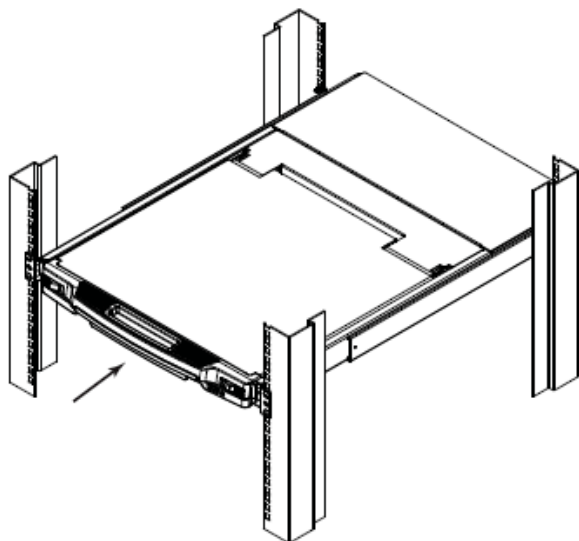
2. キャッチから手を離してください。フロントハンドルを使って、キーボードパネルをラック側にスライドさせてください。



3. LCD パネルを手前に倒したら、リアキャッチを引っ張って、LCD パネルのロックを解除してください。



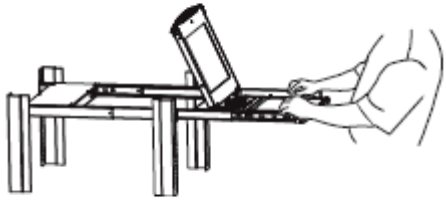
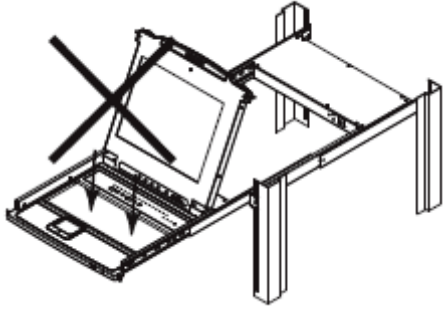
4. フロントハンドルを使って、パネルをラック側に押し込んでください。



使用上の注意



キーボードパネルの最大耐荷重は 30kg です。下記の注意事項に従わずに取り扱った場合、キーボードパネルに損傷を与えるおそれがありますので、ご注意ください。

	<p>正しい使い方</p> <p>キーボードパネルに手や腕を軽く載せて作業してください。</p>
	<p>誤った使い方</p> <ul style="list-style-type: none">◆ キーボードパネルに体重をかけないでください。◆ キーボードパネルに重い物を載せないようにしてください。

電源 OFF と再起動

製品の電源を切る必要がある場合は、以下の手順で電源を切ってから再起動するようにしてください。

1. 製品に取り付けられているコンピューターをすべてシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能をご利用のコンピューターがある場合は、シャットダウンした後で、そのコンピューターの電源コードを抜いておく必要があります。電源コードが接続されたままでは、コンピューターに電源が供給され続けてしまいます。



2. CL5808/CL5816 の電源を切ってください。
3. 10 秒ほど待機した後で、CL5808/CL5816 に電源を入れてください。
4. CL5808/CL5816 が起動し、ステーション ID を認識したらコンピューターに電源を入れてください。

注意: 複数のステーションをシャットダウンした場合は、最上位のステーションから順番に電源を入れていってください。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD の OSD を使うと、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ LCDのOSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと、メニュー機能を起動し、メインメニューを呼び出します。◆ LCD のOSDメニュー機能を呼び出してから、ナビゲーションボタンを使ってLCDのOSD メニュー項目の選択をしている時にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンで右または上にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンで左または下にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD の OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと、OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。自動調整機能は、OSD が最適と判断した値になるように LCD パネルの全機能を自動的に設定します。◆ LCD の OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと、LCD の OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整値の設定

下記の表は OSD メニューで設定可能な LCD の調整項目に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	ディスプレイ上にピクセルジッターまたは横線が見られる場合は、お使いの LCD のフェーズの設定が適切でない可能性があります。このような場合には、この値を調節して問題を解消してください。
Clock (クロック)	ディスプレイ上に縦縞のようなものが見られる場合、お使いの LCD パネルのクロックの設定が適切でない可能性があります。このような場合には、この値を調節してください。
H-Position (水平位置)	LCD 内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD 内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューにおける設定値を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。

注意: LCD の設定は、「EXIT」ボタンを押すことで LCD モニターを最適な状態に自動調整することも可能です。詳細については p.40「EXIT」の項目をご参照ください。

ホットプラグ

CL5808/CL5816 はホットプラグ対応製品です。ケーブルの抜き差しだけで、本体をシャットダウンすることなくキーボードやマウス等の取り付け・取り外しを行うことが可能ですが、ホットプラグ機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

ステーションのホットプラグ

ステーション位置はケーブルの付け替えで簡単に変更できます。変更後は、OSD メニューに新しい設定を反映させるために OSD のステーション ID のリセットが必要です。詳細は p.56「RESET STATION IDS」をご参照ください。

KVM ポートのホットプラグ

KVM ポートを変更した後、OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細に関しては、p.50 の「F3:SET」および p.53 の「F4:ADM」の項にあるポート設定の内容をご参照ください。

注意: お使いのコンピューターの OS がホットプラグ未対応である場合、CL5808/CL5816 のホットプラグ機能が正しく動作しない場合があります。

コンソールポートのホットプラグ

製品に接続されているキーボード、モニター、マウスもホットプラグすることが可能です。ただし、マウスをホットプラグする際には以下の注意事項に従って作業してください。

- ◆ マウスのリセット等の理由で同一マウスを使用する場合に限り、製品に対してマウスケーブルの抜き差しが可能です。
- ◆ ホットプラグ後にキーボードやマウス入力に対する応答が無くなった場合は、リセットスイッチ (p.21 参照) を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

注意: キーボード・マウスのリセットを実行しても問題が解決しない場合は、機器に接続されているコンピューターおよびステーションをすべてシャットダウンし、10 秒間程度お待ちください。その後は、p.31「電源 OFF と再起動」の内容に従って機器を再起動してください。

- ◆ 古い OS ではホットプラグがサポートされていない場合があります。

ポート切替

CL5808/CL5816 に接続されているコンピューターには、手動、OSD、ホットキーの 3 つの方法でアクセスすることができます。手動によるポート切替の方法は下記のセクションで説明します。また、OSD の操作方法については第 4 章で、また、ホットキーの操作方法については第 5 章でそれぞれ詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

手動によるポート切替

ステーション選択

キーボードパネルにはステーションナビゲーションボタンが付いています。前後のステーションに移動する場合は、UP ボタンや DOWN ボタンを押してください。

ポート選択

目的のステーションを選択した後で対象のポートを選択するには、下記の 2 つの方法があります。

- ◆ キーボードパネルが引き出されていない場合は、LCD パネルの左下にあるポートナビゲーションボタンを使うことができます。前後のポートに移動する場合は UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してください。このボタンを押すことで全ステーションにおけるすべての利用可能なポートを前後に次々と切り替えていきます。
- ◆ キーボードパネルが引き出されている場合は、アクセス対象となるポートに対応したポート選択ボタン(キーボードパネルの上部に位置。p.20 参照)を押してください。このボタンに内蔵されている選択 LED が点灯している場合、このポートで KVM 操作が選択中であることを表します。

ポート ID の割り当て

製品配下にあるコンピューターには、それぞれ固有のポート ID が割り振られます。ポート ID は、コンピューターが接続している KVM スイッチのステージレベルとポートナンバーによって確定する、1～2 桁の数字です。前半部分は、KVM スイッチのステージレベルを表します(例:04)。また、後半部分は、そのコンピューターが接続されているポートの番号を表します。

例えば、デジチェーン接続の機器構成における 12 台目のステーションの 3 番ポートに接続されているコンピューターのポート ID は 12-03 となります。

注意: 1 桁の番号(1～9)は、先頭に 0 詰めされます。

USB 周辺機器

キーボードパネルのフロントパネルに搭載されている USB ポートには、USB に対応した周辺機器 (フラッシュメモリ、CD-ROM ドライブ、プリンター等) を接続してお使いいただけます。この USB デバイスには製品に接続されたコンピューターから切り替えて操作することが可能です。ただし、このポートに接続された USB デバイスは、CL5808/CL5816 に接続されているコンピューターからはアクセス可能ですが、デジチェーンで拡張された子機の KVM スイッチからはアクセスすることはできませんのでご注意ください。

CL5808/CL5816 でポート切替を行うと、USB デバイスは切替先のポートで自動的に認識されます。例えば、ポート 1 のコンピューターからポート 2 のコンピューターに切り替えた場合、その USB デバイスはポート 1 からは自動的に取り外され、ポート 2 に接続します。

注意: USB デバイスの切替機能は、コンピューターとの接続に USB タイプの KVM ケーブルを使用した場合にのみサポートされます。PS/2 タイプの KVM ケーブルを使用して接続した場合にはご利用いただけませんので、ご注意ください。

第4章 OSD 操作

概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、コンピューターの制御や切替操作を行うメニュー形式のインターフェースです。全ての操作は OSD メイン画面から開始します。

OSD は下記の 2 種類の方法で起動することができます。

1. キーボードにある OSD 専用起動キー(p.95 参照)を押す。
2. **[Scroll Lock]**キーを 2 回連続で押す。

注意: [Scroll Lock]キーはデフォルトの OSD ホットキーです。この OSD ホットキーはオプションで[Ctrl]キー(p.50「OSD HOTKEY」参照)に変更することができ、この場合は**[Ctrl]**キーを 2 回連続で押します。このキーに設定を変更した場合は、2 回とも同じ**[Ctrl]**キーを押すようにしてください。

OSD へのログイン

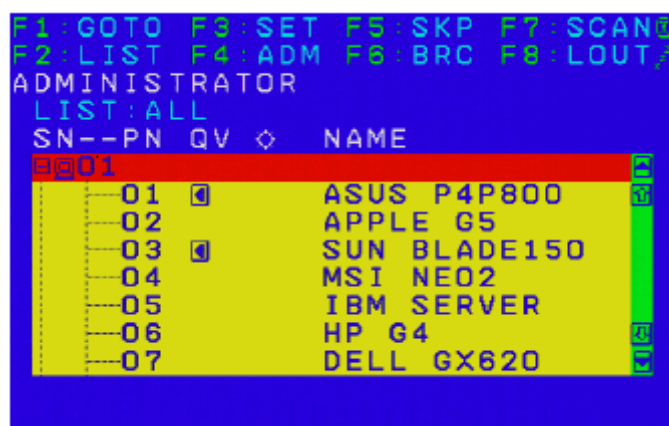
OSD には、2 段階(アドミニストレーター/ユーザー)のユーザー認証機能が組み込まれています。OSD のメイン画面が表示される前にはログイン画面が表示され、ユーザーネームとパスワードの入力が促されます。

OSD の初回起動時、またはパスワード機能が設定されていない場合には、単純に**[Enter]**キーを押してください。OSD のメイン画面がアドミニストレーターモードで表示されます。このモードでは、全ユーザーの機能にアクセスできる管理者権限が与えられ、パスワード権限を含む設定操作を自由に行うことができます。

パスワード機能が設定されている場合は、OSD にアクセスするために正しいアドミニストレーター/ユーザーのパスワードを入力する必要があります。

OSD メイン画面


OSD を起動すると、下図のような画面が表示されます。



- 注意:**
1. 上図は、アドミニストレーターとして OSD メニューにログインした場合の例です。F4 および F6 の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。
 2. OSD メニューにアクセスすると、前回のログインで最後にアクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。
 3. ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます(詳細は p.54「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)。
 4. ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合もこれと同様に操作します。
-

OSD メイン画面の項目

OSD メイン画面に表示される項目は下表のとおりです。

項目	説明
SN-PN	現在のシステム構成における全 KVM ポートのポート ID が「ステーションナンバー - ポートナンバー」の形式で表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、そのポートに接続されたコンピューターの画面に切り替わります。
QV	クイックビューポート (p.56「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているコンピューターには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます。(詳細は p.55「EDIT PORT NAMES」参照)

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードの[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。1 画面を超える数のアイテムがある場合は、この操作によってメイン画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、目的のポートまでハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの操作の実行後は、自動的にメニューは 1 つ上の階層に戻ります。

OSD 機能

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピューターの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへの直接切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、使用機能に対応したキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
3. **[Esc]**キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1:GOTO

画面の **F1** をクリックするか、**[F1]**キーを押すと、GOTO メニューを起動します。この GOTO 機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、**[1]**キーを押した後、ポートネームを入力して**[Enter]**キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、**[2]**キーを押した後、ポートIDを入力して**[Enter]**キーを押してください。

注意: この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定(p.49「F2:LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(p.54「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、**[Esc]**キーを押してください。

F2:LIST

このメニューでは、OSD メイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	ログイン中のユーザーが現在の機器構成においてアクセス可能なポートをすべてリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.56 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON(電源 ON)	接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)	クイックビューポート(p.56 参照)として選択され、かつ接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートをリストアップします。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。それぞれのユーザーのプロフィールは OSD によって保存され、ログイン時に入力されたユーザーネームに基づいて環境に反映されます。

設定を変更する場合は以下の手順で操作してください。

1. 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させて、[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、 デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2 度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 マウス、カーソルキー、または、[Num Lock]を OFF にしたテンキーの [Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、[5]の各キーを使ってポート ID の表示位置を決めた後、ダブルクリックするか [Enter]キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID 表示時間)	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示する時間を設定します。 3 SECONDS: 3 秒間 ALWAYS OFF: ポート ID を常に非表示 デフォルトでは 3 秒間に設定されています。

(表は次ページに続きます)

設定	機能
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID 表示モード)	<p>ポート ID 表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。</p> <p>PORT NUMBER + PORT NAME:ポートナンバーとポートネーム PORT NUMBER:ポート番号のみ PORT NAME:ポートネームのみ</p> <p>デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム (PORT NUMBER + PORT NAME) に設定されています。</p>
SCAN DURATION (スキャン間隔)	<p>オートスキャンモード (p.61 参照) で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1～255 秒までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。</p> <p>デフォルトでは 5 秒間に設定されています。0 秒で設定するとスキャン機能を無効にします。</p>
SCAN-SKIP MODE (スキャン/ スキップモード)	<p>スキップモード (p.59「F5:SKP」参照) およびオートスキャンモード (p.61「F7:SCAN」参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。</p> <p>ALL - アクセスできるすべてのポート (p.54 参照) QUICK VIEW - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.56 参照) のみ POWERED ON (電源 ON) - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON) - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートのみ</p> <p>デフォルトでは ALL に設定されています。</p> <p>注意:クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。(p.56「SET QUICK VIEW PORTS」参照)</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面は ブランクになります。1～30 分の時間を入力してから、 [Enter] キーを押し ます。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。 デフォルトでは 0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合がある場合 などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するキー (p.63 参照) を選択できます。 [Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [-] のいずれかを選択してください。 デフォルトでは [Num Lock] + [-] に設定されています。
OSD LANGUAGE (OSD 言語)	OSD メニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のと おりです。 ENGLISH: 英語 DEUTSCH: ドイツ語 日本語 簡中: 中国語 (簡体字) 繁中: 中国語 (繁体字) デフォルトでは ENGLISH に設定されています。
TOUCHPAD (タッチパッド)	タッチパッド機能を有効/無効にします。

F4:ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]キーを押してください。

項目を選択すると、F4 機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter]キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの 設定)	<p>この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。</p> <p><u>USER NAME と PASSWORD の設定</u></p> <ul style="list-style-type: none">◆ アドミニストレーター1名およびユーザー4名のユーザーネームおよびパスワードの設定が可能です。◆ アドミニストレーターまたはユーザーの一人を選択すると、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)、半角スペースを使用し、1~16文字で入力してください。◆ ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。◆ 既に入力されたユーザーネームまたはパスワードを消去する場合は、[Backspace]キーを使用してください。入力が完了したら[Enter]キーを押してください。◆ ユーザーネームおよびパスワードは大文字と小文字を区別しません。ユーザーネームは OSD では大文字で表示されます。

(表は次ページに続きます)

設定	機能
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセスポートの 設定)	<p> アドミニストレーターはこの機能でポート別に各ユーザーのアクセス権限を定義することができます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、スペースキーを押して、お使いの環境に適したものを以下から選択してください。 </p> <p> F:フルアクセス V:モニターのみ (スペース):アクセス NG </p> <p> 全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら [Enter] キーを押してください。 </p> <p> デフォルトでは、F(全てのユーザーが全てのポートに対しフルアクセス可能)に設定されています。 </p> <p> 注意: </p> <ol style="list-style-type: none"> ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。 アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセスの権限を持っています。
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	<p> ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 </p> <p> この機能はオペレーターがもうコンピューターにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレーターがそのコンピューターにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1~180 分までの数値を入力し、[Enter] キーを押してください。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。 </p> <p> デフォルトは 0(無効)に設定されています。 </p>

(表は次ページに続きます)

設定	機能
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	<p>製品に接続されているコンピューターの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。</p> <p>ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、半角英数字(a~z、0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)を使用し最大 12 文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	<p>この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSD メニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(p.90「OSD FACTORY DEFAULT SETTINGS」参照)</p>
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	<p>ポートネームの一覧を消去します。</p>
ACTIVATE BEEPER (ビープ音設定)	<p>ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Yを選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.61 参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力された時にそれぞれビープ音が鳴ります。</p> <p>デフォルトでは Y(有)に設定されています。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORT の設定)	<p>クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレーターのみが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとしてポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーでハイライトバーをそのポートに移動させて、スペースキーを押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST メニュー (p.49「F2:LIST」参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (p.51 参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
RESET STATION IDS (STATION ID RESET)	<p>ダイジーチェーン接続されているステーションの位置を物理的に変更しただけでは、OSD の設定に新しい内容が反映されません。その場合はこの機能を用いて CL5808/CL5816 に接続されているステーションをスキャンしなおし、OSD を物理的な設定に更新します。</p> <p>注意:この機能ではステーションナンバーの情報のみ更新されます。ポートネームを除いたすべてのアドミニストレーターの設定(アクセスポート、クイックビューポート等)は、この変更が影響するすべてのコンピューターに対して手動で更新する必要があります。</p>

(表は次ページに続きます)

設定	機能
SET CONSOLE MODE (コンソールモードの設定)	<p>この項目では、有効にするコンソールを選択します。</p> <p>MODE 0 - メイン/セカンド(両方のコンソールを有効にする) MODE 1 - メインコンソールのみ MODE 2 - セカンドコンソールのみ</p> <p>スペースキーを押すと、設定内容を切り替えます。デフォルトでは 0 に設定されています。</p>

F5:SKP

画面の **F5** の項目をクリックするか、**[F5]**キーを押すとスキップモードを起動します。この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なコンピューターのポートに簡単にスキップすることができます。

- ◆ スキップモード切替が利用できるコンピューターの選択は、「**F3 SET**」の機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます (p.51 参照)。
- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。
 - [←]キーを押すと、リスト内の前のポートにスキップします。
 - [→]キーを押すと、リスト内の次のポートにスキップします。
 - [↑] キーを押すと、リスト内における前のステーションの最後のポートにスキップします。
 - [↓] キーを押すと、リスト内における次のステーションの最初のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、スキャン/スキップモード (p.51 参照) で選択できる前後のコンピューターにしかアクセスできません。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポートIDの前に三角の印(▲▼)が表示されます。
- ◆ スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、**スペースキー**、または**[Esc]**キーを押してください。

F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面の **F6** の項目をクリックするか、**[F6]**キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、CL5808/CL5816 上の利用可能なポートに同時に実行することができます。

これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピューターで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合は BRC モードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD メニューを OSD 起動用ホットキーで起動し、**F6** のフィールドをクリックするか、**[F6]**キーを押してください。

F7:SCAN

画面の **F7** の項目をクリックするか、**[F7]**キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手動でポート切替を行うことなく、稼働中のコンピューターを一定の時間間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピューターは、スキャンモード設定の「**F3:SET**」(p.50 参照)のメニューで選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間間隔の設定は、「**F3:SET**」の「SCAN DURATION」(p.51 参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合は**スペースキー**を押してください。
- ◆ KVM スイッチが選択したポートが、コンピューターが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないコンピューターが接続されているポートである場合、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替りますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力のある場合は、**スペースキー**を押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、**[P]**キーを押す、もしくは左クリックしてください。詳細については p.66 をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は**スペースキー**もしくは**[Esc]**キーを押してください。

F8:LOUT

画面の **F8** の項目をクリックするか、**[F8]**キーを押すと OSD メニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。これは OSD メインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。**[Esc]**キーを押した場合は、ログアウトせず OSD メニューを閉じただけで、OSD ホットキーを押せば再度 OSD メニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うと OSD からログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、OSD メインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に再び KVM スイッチへログインして OSD を表示し、メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーで OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には Null Port 無効ポートメッセージが表示されます。このような場合には、OSD 起動ホットキーによって OSD 画面を表示することができます。
-

第5章

キーボードによるポート操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切り替えることができます。CL5808/CL5816 が提供しているホットキーの機能には以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替操作
- ◆ スキップモードによる切替操作
- ◆ コンピューターのキーボードおよびマウスのリセット

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD デフォルト値のリストア

ホットキーモード

ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードの起動用に2種類のホットキーを提供していますが、1度に使用できるのは1種類だけです。

1. デフォルト:[Num Lock] + [-]
デフォルトのキー操作でホットキーモードを起動する場合は、下記の手順に従って操作してください。
 1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
 2. [-]キーを押して指を離してください。
 3. [Num Lock]キーから指を離してください。
2. 代替:[Ctrl] + [F12]
代替のキー操作でホットキーモードを起動する場合は、下記の手順に従って操作してください。
 1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
 2. [F12]キーを押して指を離してください。
 3. [Ctrl]キーから指を離してください。

注意:

1. この設定ではホットキーコマンドモードを有効にする必要があります(p.52 参照)。
2. ホットキーモードを起動した際に、有効なキー操作を行っていることを確認してください。

ホットキーモードが有効である場合

ホットキーモードが有効である場合には、製品に下記の動作が見られます。

- ◆ モニターに、コマンドラインが表示されます。このコマンドラインには、青い背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力はサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力のみが可能です。

ホットキーモードの終了

ホットキーモードを終了する場合は、[Esc]キーを押してください。

アクティブポートの選択

各 KVM ポートには固有のポート ID が割り当てられます (p.44「ポート ID の割り当て」参照)。コンピューターが接続されている KVM ポートのポート ID をホットキーで指定することで、CL5808/CL5816 に接続されているコンピューターに直接アクセスすることができます。ホットキーを使ってポートを切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. ポート ID を入力してください。
入力したポート ID は画面上に表示されます。入力を誤った場合は[Backspace]キーを使って消してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポートIDのコンピューターが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

注意: ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるかホットキーモードが終了されるまで表示されたままになります。

オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN/SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切り替えます(詳細については p.51「SCAN/SKIP MODE」参照)。

オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. **[A]**キーを押してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。

オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作が一時停止されます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。

オートスキャンの終了

オートスキャンモードを終了する場合は、**[Esc]**キーまたは**スペースキー**を押してください。この操作によってオートスキャンモードが終了し、通常のコソール操作に戻ります。

オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードでは、特定のコンピューターを選択したままにするためにスキャンを一時停止することができます。

場合によっては、一時停止の方がオートスキャンの終了よりも便利なことがあります。というのも、オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回一時停止したポートからスキャンを続けるからです。

オートスキャンモードを一時停止する場合は、**[P]**キーを押すか、マウスの左クリックを行ってくだ

さい。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「**Auto Scan : Paused**」という文字が表示されます。

オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。

スキップモード

この機能を利用すると、コンピューターを手動で切り替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、選択したポートを時間の制限にしばられることなく、好きなだけポートを選択しておくことができます。

スキップモードの起動

スキップモードを起動する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. 切替対象となるポートに応じて、カーソルキーを押してください。
カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、リスト内における前のポートにスキップします。(アクセスポートに関する詳細は p.51「SCAN/SKIP MODE」を参照)
→	現在のポートから、リスト内における次のポートにスキップします。
↑	現在のポートから、リスト内における前のステーションの最後のポートにスキップします。
↓	現在のポートから、リスト内における次のステーションの最初のポートにスキップします。

スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに[Num Lock] + [-]等でホットキーモードを起動する必要はありません。

スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用したい場合はスキップモードを終了する必要があります。

スキップモードの終了

スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

コンピューターのキーボード/マウスのリセット

製品に接続されたコンピューターの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、下記の手順に従ってキーボードとマウスのリセットを行ってください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. [F5]キーを押してください。

この機能を使うと、そのコンピューターで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ効果を得られます。[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを開始し、そのポートに接続されているコンピューターでキーボードとマウスが再びお使いいただけるようになります。

上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、コンソールキーボードとマウスのリセットを実行してください。詳細はp.21 に記載されておりますので、そちらをご参照ください。

ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音(p.55 参照)はホットキーを使って有効または無効にすることが可能です。ビープ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音が有効または無効に切り替わり、画面上に1秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

クイックホットキーの切替

クイックホットキー (p.52「ホットキーモードの起動」参照)は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]に切り替えることができます。クイックホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. [H]キーを押してください。

[H]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

OSD ホットキーの切替

OSD を呼び出すホットキーは、[Scroll Lock]キー2 度押し、または[Ctrl]キー2 度押しに切り替えることができます。OSD ホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. [T]キーを押してください。

[T]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

ポート OS の変更

ポートに接続されているコンピューターの OS と一致するように CL5808/CL5816 側でポート OS を設定することができます。ポート OS を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. 下表を参照してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

3. 設定変更の対象となるポートに適した OS を選択し、該当するファンクションキーを押してください。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を CL5808/CL5816 にリストアします (p.55「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)。デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. **[R]**キーを押してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。

[Enter]キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが 3 秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter] または [Q] [Enter]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモードを実行中に[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。 オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[B]	ビープ音を ON または OFF に切り替えます。
	[Esc] または スペースキー	ホットキーモードを終了します。
	[F1]	現在選択されているポートのポート OS を Windows に設定します。
	[F2]	現在選択されているポートのポート OS を Mac に設定します。
	[F3]	現在選択されているポートのポート OS を Sun に設定します。
	[F5]	現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。
	[H]	クイックホットキーを[Ctrl] + [F12]または[Num Lock] + [-]に変更します。
	[R] [Enter]	工場出荷時にデフォルト値を CL5808/CL5816 にリストアします。 (アドミニストレーター限定機能) (p.55 「RESTORE DEFAULT VALUE」参照)
	[ステーションナンバー] [ポートナンバー] [Enter]	指定したステーションの指定したポートに切り替えます。

(表は次のページに続きます)









[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[T]	OSD ホットキーを[Ctrl]キー2 度押し、または[Scroll Lock]キー2 度押しに変更します。
	[←]	スキップモードを起動し、前のアクセス可能なポートに切り替えます。
	[→]	スキップモードを起動し、次のアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↑]	スキップモードを起動し、前のステーションにある最後にアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↓]	スキップモードを起動し、次のステーションにある最初にアクセス可能なポートに切り替えます。

第6章

キーボードエミュレーション

Mac キーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

本製品はファームウェアアップグレードを自動的に行うために、ファームウェアアップグレードユーティリティという Windows ベースのツールを提供しております。このツールは、各製品のファームウェアアップグレードパッケージの一部として配布されているものです。

製品のファームウェアは新しいバージョンがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。定期的にこのダウンロードサイトにアクセスしていただき、ファームウェアのアップグレードを行うことで、最新の機能をご利用いただけます。

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

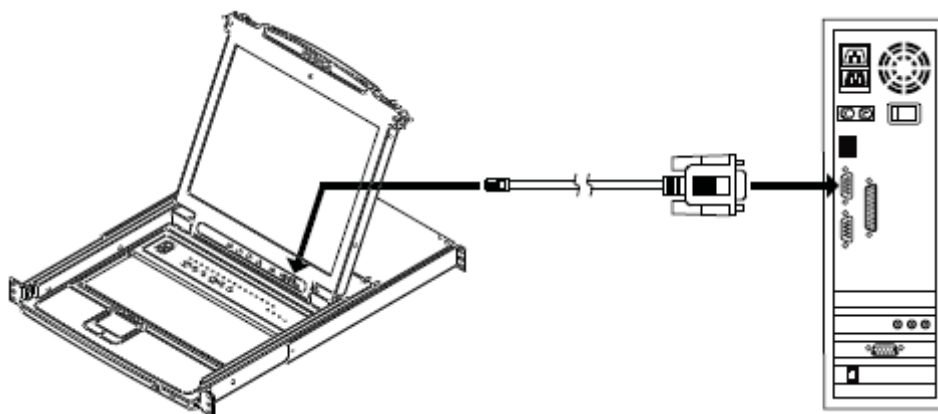
ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードする場合は、下記の手順に従って作業してください。

1. CL5808/CL5816 に接続されていないコンピューターから弊社ダウンロードサイトにアクセスし、製品型番リストから CL5808/CL5816 を選択してください。利用可能なファームウェアのバージョンが一覧表示されます。
2. 適用対象となるアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、そのコンピューターにダウンロードしてください。

アップグレード作業の下準備

ファームウェアアップグレードを開始する前に、以下の手順で準備を行ってください。

1. 製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルでお使いのコンピューターの COM ポートと製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



注意: 製品のファームウェアのアップグレードを行うと、その KVM スイッチにデイジーチェーン接続されている他の KVM スイッチにもデイジーチェーン専用ケーブルを介して同時にファームウェアアップグレードを行います。

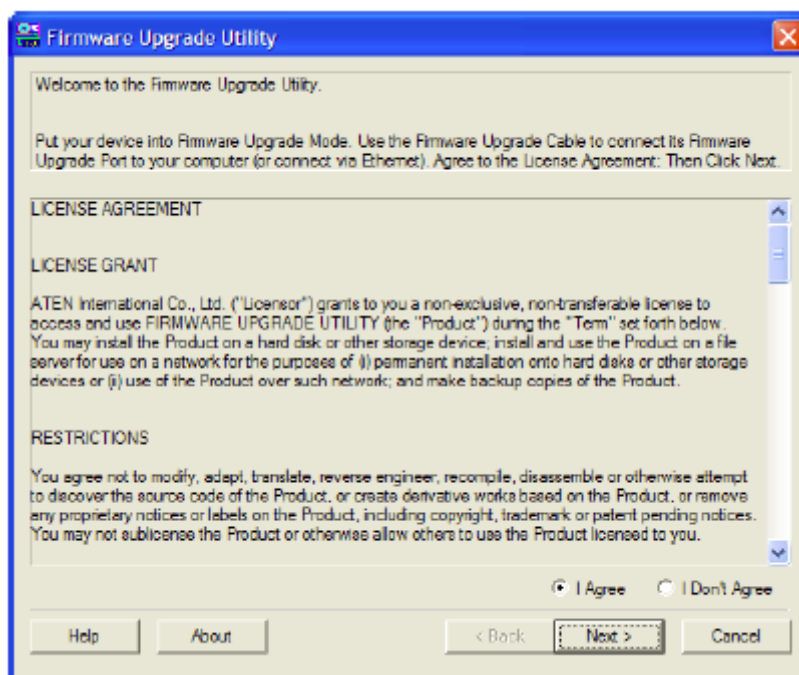
2. 製品に接続されているすべてのコンピューターの電源を切ってください。(このときステーションの電源は切らないでください。)
3. コンソールから製品の OSD メニューにアドミニストレーターとしてログインし(p.45 参照)、「F4 : ADM」メニューを選択してください。
4. 「FIRMWARE UPGRADE」メニューを選択し、[Enter]キーを押してください。その後ファームウェアの更新データをダウンロードの可否を問われますので[Y]キーを押して、アップグレードモード(p.57 参照)を開始してください。

注意: ファームウェアアップグレードモードの起動中は、ポート LED ランプが点滅します。

アップグレードの開始

ファームウェアのアップグレードを実行する場合は、以下の手順で操作してください。

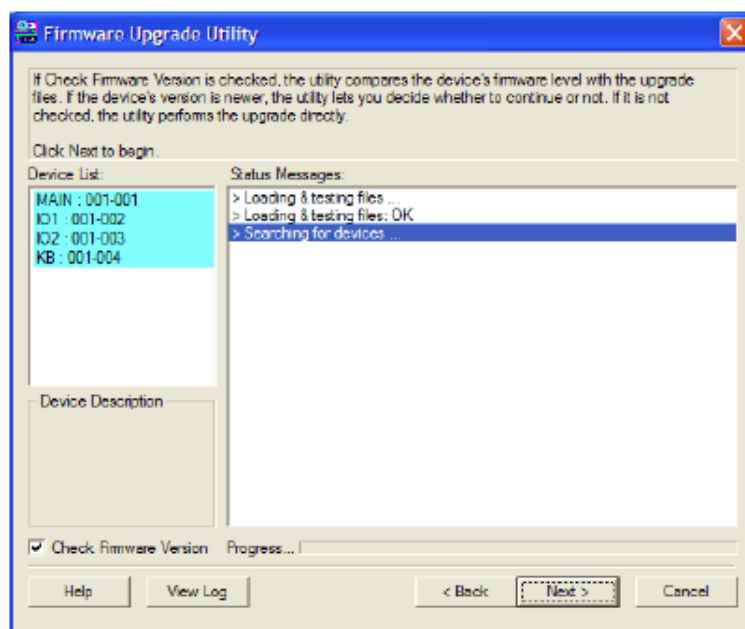
1. 弊社ダウンロードサイトからダウンロードしたパッケージをダブルクリックするか、そのファイルのフルパスをコマンドラインに入力して実行してください。以下のようなファームウェアアップグレードユーティリティの初期画面が表示されます。



注意: 本セクションで使用されている図は参考例で、実際の画面とは異なる場合があります。ご了承ください。

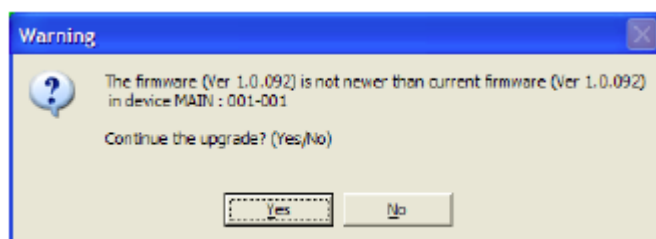
2. ダイアログ内に表示されている使用許諾契約の内容をご確認いただき、「I Agree」のラジオボタンを選択してその内容に同意してください。
3. アップグレード処理を続行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。

このボタンを押すと、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。この画面には、現在のファームウェアアップグレードパッケージでアップグレードが可能なデバイスの一覧が表示されます。



4. アップグレードを実行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。

「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ユーティリティは現在デバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、これから適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、デバイスに既にインストールされているバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレード作業を続けるかどうかの選択を促されます。

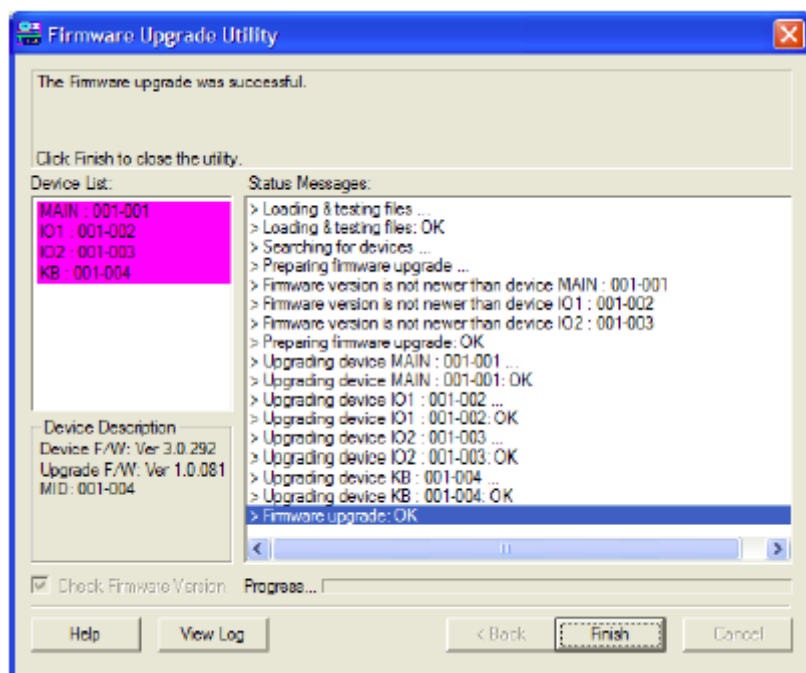


この項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファームウェアの比較を行わずにアップグレード処理を続行します。

なお、アップグレードの進捗状況は、画面に表示されるステータスメッセージとプログレスバーで確認することができます。

アップグレード成功

アップグレードに成功すると、以下のような画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は「**Finish**」ボタンをクリックしてください。

アップグレード失敗

上図のような画面が表示されなかった場合、アップグレード処理に失敗した可能性があります。この場合は次のセクションの「ファームウェアアップグレードリカバリー」の内容にしたがって復旧作業を行ってください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

以下のような場合、ファームウェアアップグレードのリカバリー作業が必要となります。

- ◆ ファームウェアのアップグレード作業がユーザーによって途中で中止された。
- ◆ マザーボードのファームウェアのアップグレードに失敗した。
- ◆ I/O のファームウェアのアップグレードに失敗した。

ファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品の電源を切ってください。他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続されている場合は、デイジーチェーン専用ケーブルをはずして、他の機器と物理的に切り離してください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、製品のファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. 製品のファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置にスライドさせてください。
4. 製品に電源を入れなおし、アップグレード作業を最初からやり直してください。
5. ファームウェアアップグレードが成功したら、製品の電源を一旦切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
6. 製品を他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続する場合は、元の位置に接続しなおしてください。
7. 製品に電源を入れなおしてください。

付録

製品仕様

機能		CL5808	CL5816
コンピューター 接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大 (デイジーチェーン)	256	512
コンソール接続数		1	
セカンドコンソール		1	
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	SPHD メス×8	SPHD メス×16
	マウス		
	モニター		
セカンドコンソール側 コネクタ	キーボード	SPHD オス×1	SPHD オス×1
	マウス		
	モニター		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択	プッシュボタン×2 (LCD)	プッシュボタン×2 (LCD)
		プッシュボタン×8 (キーボード)	プッシュボタン×16 (キーボード)
	ステーション選択	プッシュボタン×2	
	電源	ロッカースイッチ×1	
	LCD 調節	プッシュボタン×4	
	LCD ON/OFF	LED プッシュボタン(オレンジ)×1	
ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1		

(表は次のページに続きます)

機能		CL5808	CL5816
デジチチェーン ポート	OUT	DB-25 ピンオス×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1	
外付けマウスポート		USB タイプ A メス×1	
USB ポート		USB タイプ A メス×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	
LED	オンライン	オレンジ×8	オレンジ×16
	選択	グリーン×8	グリーン×16
	ステーション ID	7 セグメントデジタル表示 オレンジ×2	
	電源	ダークグリーン×1	
	Num Lock	グリーン×1	
	Caps Lock	グリーン×1	
	Scroll Lock	グリーン×1	
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB	
スキャンインターバル		1～255 秒/5 秒(デフォルト)	
電源仕様		100V～240V (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)	
消費電力		30.1W	31.6W
解像度		最大 1,280×1,024@75Hz、DDC2B 準拠	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル、プラスチック	
重量		14.83kg	15.02kg
サイズ(W×D×H)		480×680.4×44mm	

(表は次のページに続きます)

機能	CL5808	CL5816
同梱品	2L-5302UP(1.8m)ケーブル×2 コンソールケーブル×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 電源コード(1.8m)×1 接地線×1 イージーセットアップラックマウントキット (ショート or ロング)×1 クイックスタートガイド×1 ユーザーマニュアル×1	
対応 KVM ケーブル	《PS/2KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5702P(1.8m) 《USBKVM ケーブル》 2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m) 《PS/2・USBKVM ケーブル》 2L-5301UP(1.2m) 2L-5302UP(1.8m) 2L-5303UP(3m) *注意:標準で PS/2・USB ケーブル(2L-5302UP)×2 が 付属しています。	

(表は次のページに続きます)

機能	CL5808	CL5816
デージーチェーン対応製品		ACS-1208A ACS-1216A CS1708A CS1716A
デージーチェーン用ケーブル		2L-1700(0.6m) 2L-1701(1.8m) 2L-1703(3m) 2L-1705(5m) 2L-1715(15m)
レガシーSUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)		CV-130A(1.8m)
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)		2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)
MAC 用ケーブル		2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)

スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表

下表は、CL5808/CL5816 の台数と、そのときに操作可能なコンピューターの台数との関係を表しています。

CL5808 に 8 ポート KVM スイッチを接続した場合

No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers
1	1-8	9	65-72	17	129-136	25	193-200
2	9-16	10	73-80	18	137-144	26	201-208
3	17-24	11	81-88	19	145-152	27	209-216
4	25-32	12	89-96	20	153-160	28	217-224
5	33-40	13	97-104	21	161-168	29	225-232
6	41-48	14	105-112	22	169-176	30	233-240
7	49-56	15	113-120	23	177-184	31	241-248
8	57-64	16	121-128	24	185-192	32	249-256

CL5808 に 16 ポート KVM スイッチを接続した場合

No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers
1	1-8	9	121-136	17	249-264	25	377-392
2	9-24	10	137-152	18	265-280	26	393-408
3	25-40	11	153-168	19	281-296	27	409-424
4	41-56	12	169-184	20	297-312	28	425-440
5	57-72	13	185-200	21	313-328	29	441-456
6	73-88	14	201-216	22	329-344	30	457-472
7	89-104	15	217-232	23	345-360	31	473-488
8	105-120	16	233-248	24	361-376	32	489-504

CL5816 に 8 ポート KVM スイッチを接続した場合

No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers
1	1-16	9	73-80	17	137-144	25	201-208
2	17-24	10	81-88	18	145-152	26	209-216
3	25-32	11	89-96	19	153-160	27	217-224
4	33-40	12	97-104	20	161-168	28	225-232
5	41-48	13	105-112	21	169-176	29	233-240
6	49-56	14	113-120	22	177-184	30	241-248
7	57-64	15	121-128	23	185-192	31	249-256
8	65-72	16	129-136	24	193-200	32	257-264

CL5816 に 16 ポート KVM スイッチを接続した場合

No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers	No.	Computers
1	1-16	9	129-144	17	257-272	25	385-400
2	17-32	10	145-160	18	273-288	26	401-416
3	33-48	11	161-176	19	289-304	27	417-432
4	49-64	12	177-192	20	305-320	28	433-448
5	65-80	13	193-208	21	321-336	29	449-464
6	81-96	14	209-224	22	337-352	30	465-480
7	97-112	15	225-240	23	353-368	31	481-496
8	113-128	16	241-256	24	369-384	32	497-512

対応 KVM スイッチ

CL5808/CL5816 には最大 31 台の対応 KVM スイッチをデイジーチェーン接続して増設することができます。本製品にデイジーチェーン接続できる ATEN/ALTUSEN シリーズの対応 KVM スイッチは、下表のとおりです。

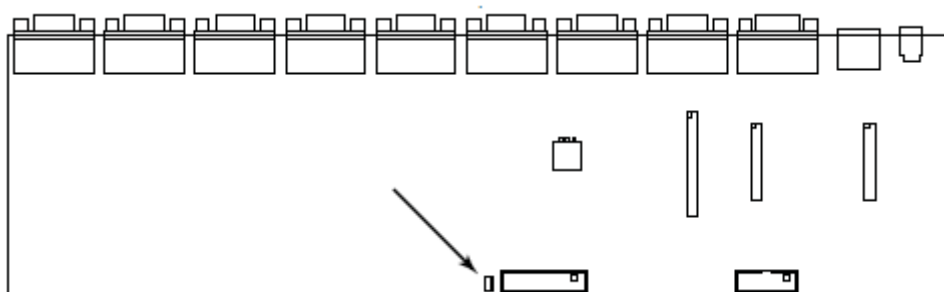
型番	名称
ACS-1208A/ACS-1216A	8/16 ポート PS/2 KVM スイッチ
CS1708A/CS1716A	8/16 ポート PS/2 - USB 対応 KVMP スイッチ
KH0116	1U サイズ 16 ポート高密度 KVM スイッチ
KH1508A/KH1516A	8/16 ポートカテゴリ 5KVM スイッチ

- 注意:**
1. デイジーチェーン接続の機器構成で使用する場合、ステーション間の距離が 15m を超えないようにセットアップしてください。
 2. CL5808/CL5816 と最後のステーションの間の距離が 100m を超えないようにセットアップしてください。

ログイン情報のクリア

ユーザーネームやパスワードの情報が破損した、または、これらの情報を忘れた等の理由で、アドミニストレーターとしてログインできなくなった場合は、下記の手順でログイン情報をクリアすることができます。

1. CL5808/CL5816 の電源を OFF にし、製品の外側のケースをはずしてください。
2. マザーボード上にある「Default Password」と書かれている「J17」のジャンパをショートさせてください。



3. CL5808/CL5816 に電源を入れてください。製品に電源が入ると、以下のようなメッセージが表示されます。

```
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.  
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE  
THE CASE, THEN RESTART.
```

CL5808/CL5816 に電源を入れなおすと、OSD のログイン機能は製品の初回起動時と同様に作動しますので(p.45 参照)、アドミニストレーターとユーザーのパスワードをリセットすることができます。

OSD の工場出荷時における初期設定一覧

CL5808/CL5816 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビーブ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

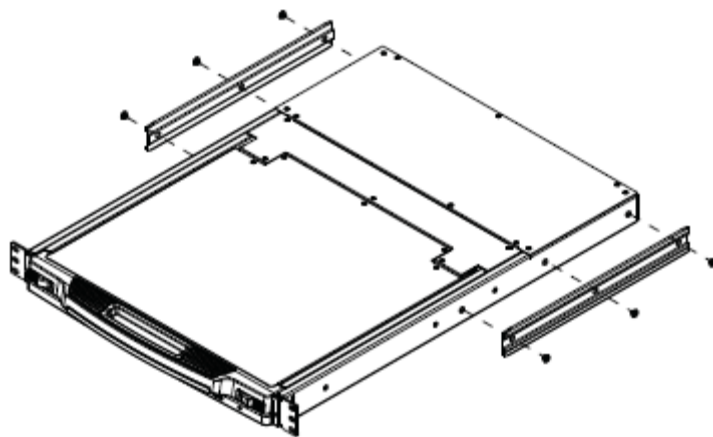
KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
CL5808MJJS	イージーセットアップ	42cm～70cm
CL5816MJJS	ラックマウントキット/ショート	
CL5808MJJL	イージーセットアップ	68cm～105cm
CL5816MJJL	ラックマウントキット/ロング	

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

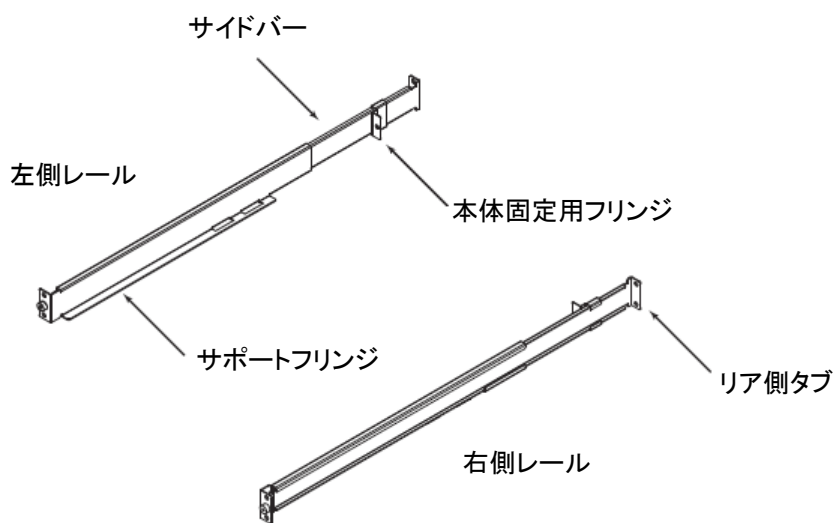
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って CL5808/CL5816 を取り付けるだけです。詳細については p.26 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使って作業を行う場合、一人で CL5808/CL5816 を取り付けることが可能です。イージーセットアップラックマウントキットを使用する際のマウント作業は下記の手順に従ってください(ショート/ロング共通)。

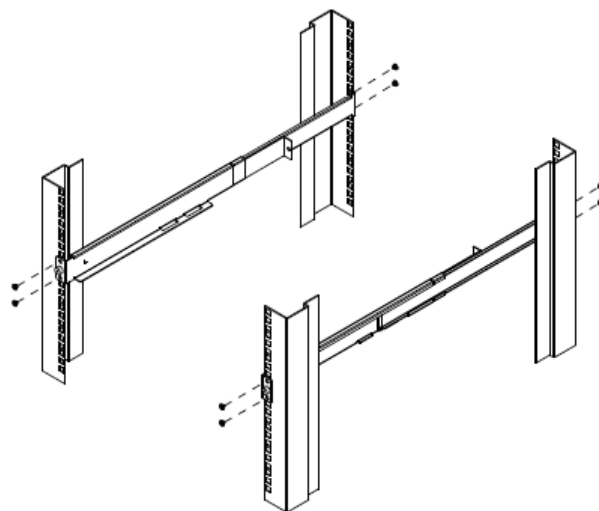
1. CL5808/CL5816 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イージーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールを取り外してください。外したネジとレールは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてください。



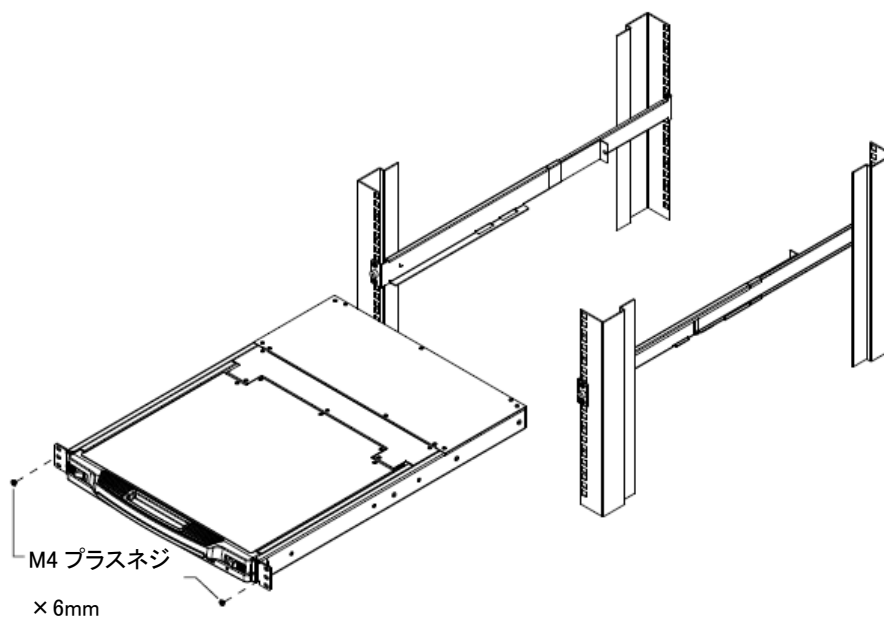
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右前後を確認してください。



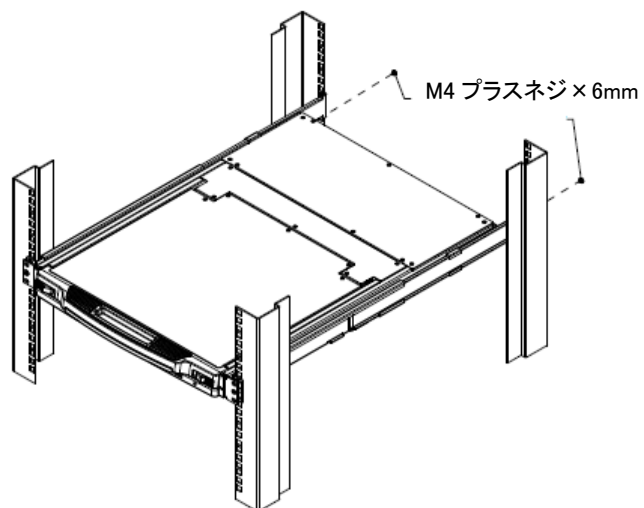
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



- 3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、CL5808/CL5816 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCD パネル/キーボードパネルを引き出してみ、問題なく操作できることを確認してください。
(操作手順についてはp.33を参照)
6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

トラブルシューティング

概要

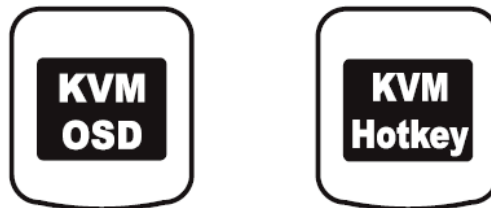
操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず、ケーブルが KVM スイッチおよびコンピューターの各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

また、これらの問題は、ファームウェアのアップグレードの適用によって解決することがあります。現在お使いのバージョンが最新でない場合は、最新版のファームウェアを適用することをお勧めします。詳細についてはp.76 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」をご参照ください。

現象	対処法
外付モニターにゴーストが発生する。	外付モニターと CL5808/CL5816 間の距離が離れすぎている可能性があります。使用する VGA ケーブルの最大長を 20m (もしくはそれ以下) にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してみてください。

ホットキーモード/OSD 専用起動キー

ホットキーモードと OSD がそれぞれ簡単に起動できるように、以下のような 2 つの専用キーがキーボードパネル側に設けてありますので、ご利用ください。



注意: これらの専用キーはトグルボタンですので、1回目に押したときは該当メニューを起動し、2回目に押したときはその機能を終了します。

SPHD コネクターについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクターを使用しております。コネクターの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。